

先端教育担当

港区中学校海外修学旅行の区民アンケート結果等について

港区中学校海外修学旅行の区民アンケート結果について、以下のとおり報告します。

1 アンケートの概要

(1) 背景及び目的

港区中学校海外修学旅行は、令和 6 年度から英語でのコミュニケーション能力を発揮する場として区立中学校 3 年生の全生徒を対象に実施しており、真の国際人育成を図る目的で、現地学生との交流や海外の文化等に直接触れています。

令和 8 年度をもって事業開始から 3 年間が経過することから、これまでの成果と課題を総括し、生徒・教員・保護者・区民アンケートを踏まえて、令和 9 年度以降の方針を決定するため、区民アンケートを実施しました。

(2) 概要

調査対象	区民（区内在住）
期間	令和 8 年 7 月 1 0 日（金）から同月 3 1 日（金）まで
調査方法	L o G o フォーム（電子申請サービス）を活用し実施
回答数	2, 9 6 9 名

(3) 調査の内容

設問	詳細
○回答者の属性	居住地域
	年齢
	子どもの有無
	子どもがいる場合の年代・園・学校の種類
○海外修学旅行について	国際人の育成に海外修学旅行は効果的な取組だと思うか。
	中学生に修学旅行を通して経験してほしいことはなにか。
	中学生にとって深い学びにつながる修学旅行の方面はどこか。
	海外で修学旅行を継続することの有無
○保護者負担金について	修学旅行で保護者負担金として家庭が負担できる金額
	職業形態
	年間収入

(4) 結果の概要

ア 年代について

2,969件のうち、約半数が40代の回答となっており、約95%の回答者が3名以下の子どもがいると回答しています。

イ 国際人育成事業としての効果について

「国際人の育成に海外修学旅行が効果的な取組だと思うか」の設問に対して、「思う」「どちらかといえば思う」の割合は87%に及んでおり、海外修学旅行が効果的な取組であるということが肯定的に捉えられています。

ウ 継続の賛否について

海外修学旅行の継続について、回答者の84.4%が海外修学旅行を継続した方が良いと回答しています。

エ 行き先について

シンガポールが2,525件(85.0%)、シンガポール以外のアジア圏が729件(24.6%)、国内が657件(22.1%)となっており、現行のシンガポールが修学旅行先として深い学びにつながると捉えられています。

オ 保護者負担金について

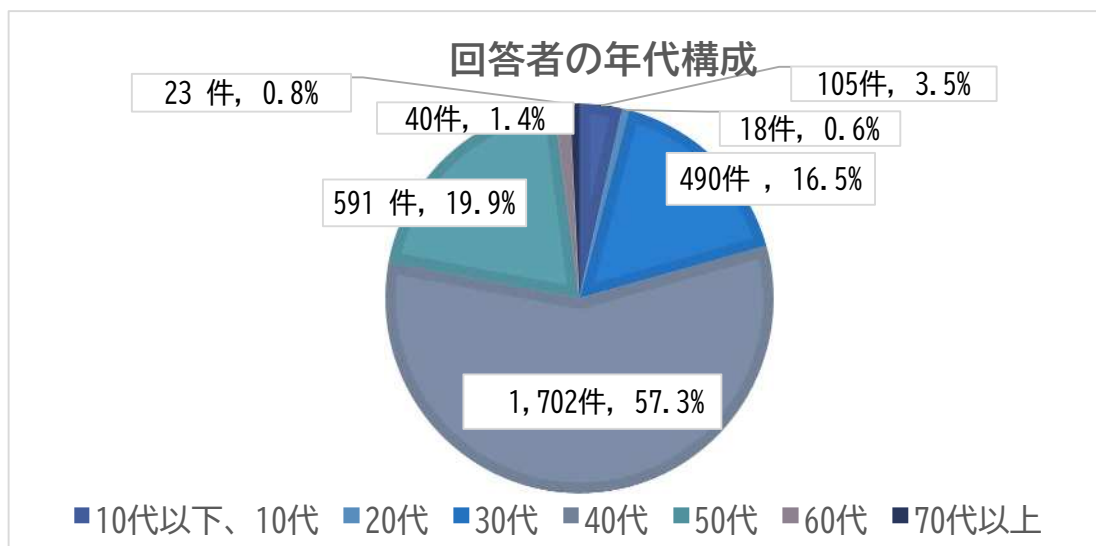
家庭が負担できる金額は、「50,000円以上100,000円未満」が47.4%、「30,000円以上50,000円未満」が33.9%になっています。負担できると回答した割合は95%で、無償を求める回答は4.7%となっています。

2 区民アンケートについて

(1) 回答者の属性について

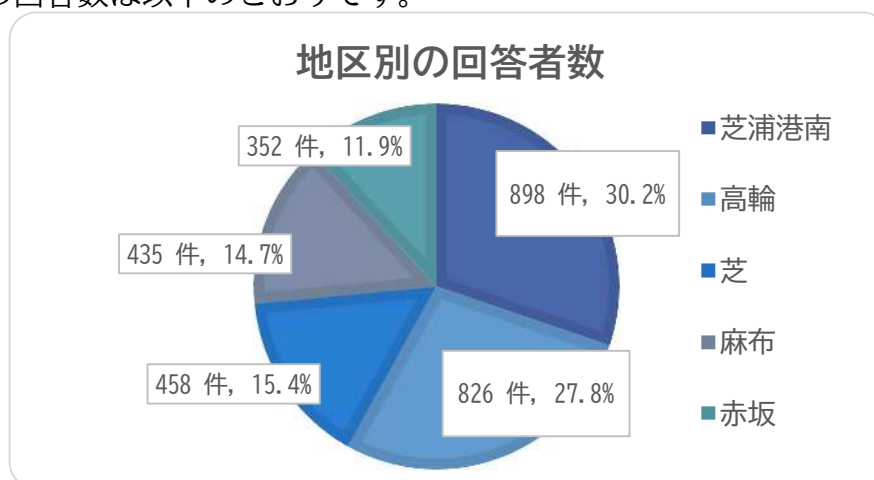
ア 年代構成

回答者2,969人の年代構成は、40代が1,702人(57.3%)と最も多く、続いて50代の591人(19.9%)、30代の490人(16.5%)です。30代から50代までの回答者は合計2,783人となり、全体の93.7%を占めています。



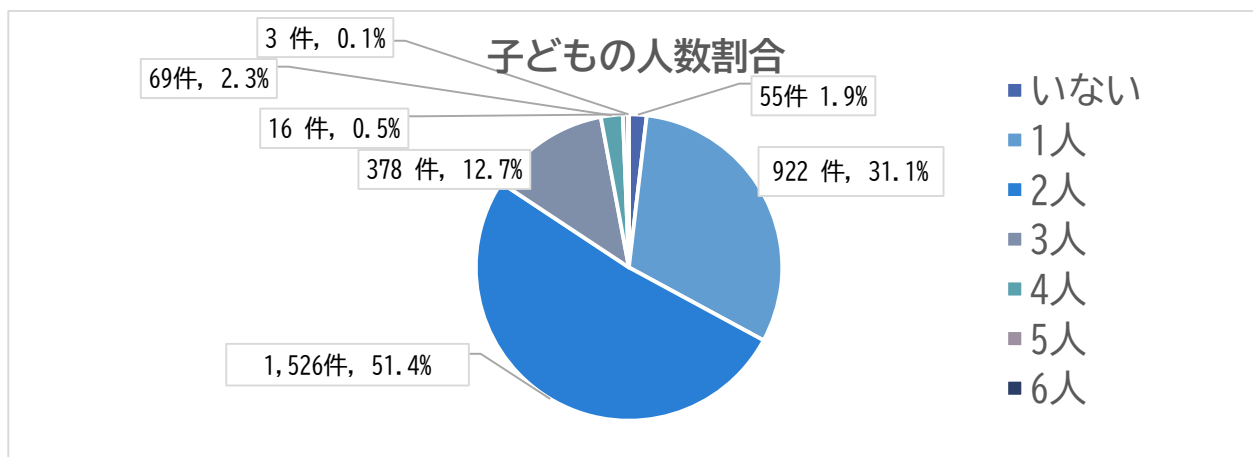
イ 地区別

地区別の回答数は以下のとおりです。



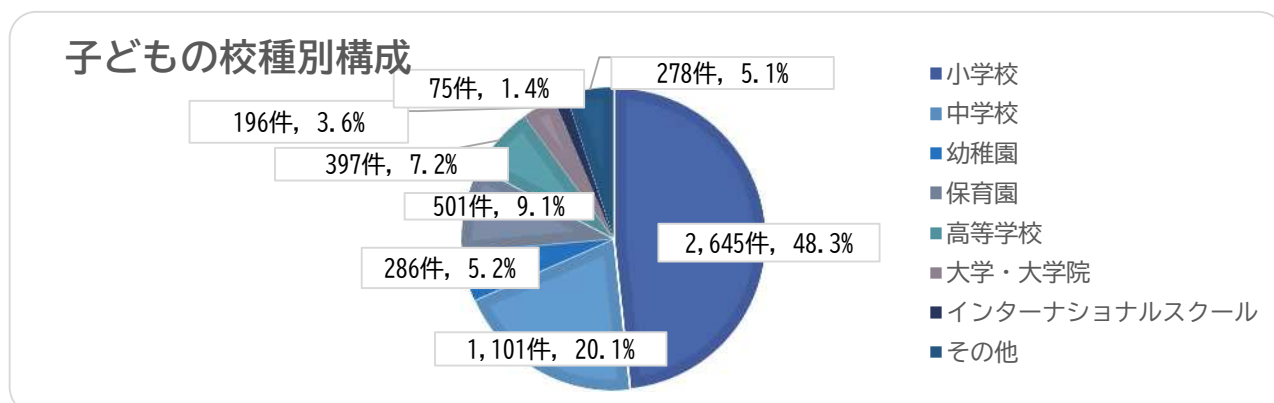
ウ 子どもの有無と人数

回答者のうち、「子どもがいる」と回答したのは2,914名、「子どもはいない」と回答したのは55名です。



エ 子どもの校種

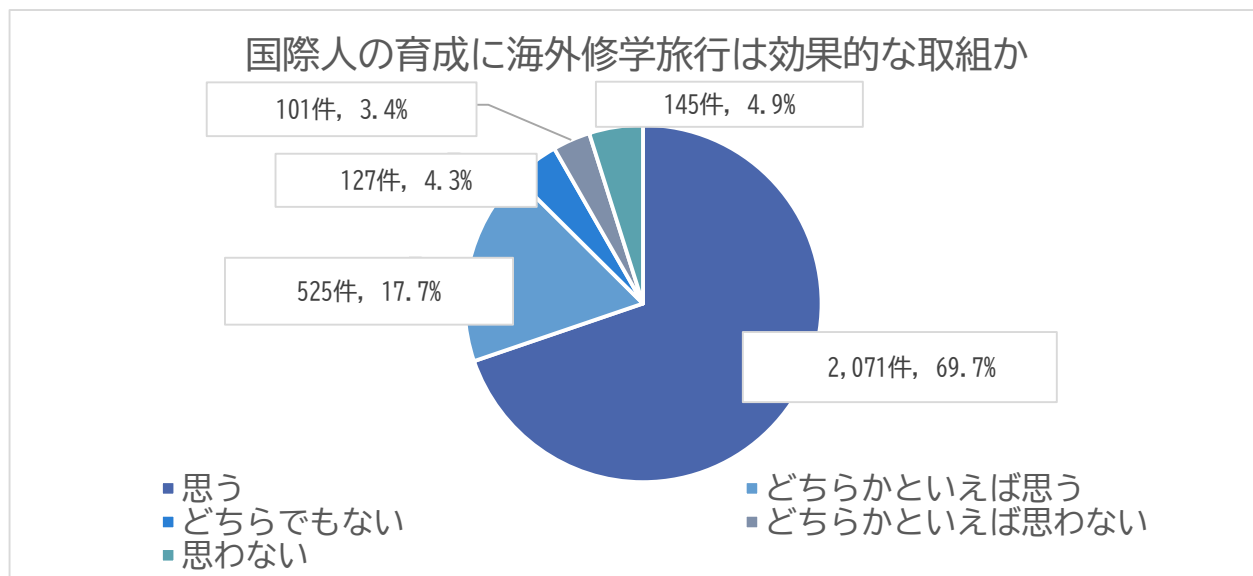
子どもの人数を全て合算した人数は5,479名です。5,479名の属性を集計したところ、小学校（区立、私立、都立等）が2,645人（48.3%）で最も多く、小学生が全体の約半数、保育園・幼稚園児が約14%を占めており、今後、海外修学旅行の対象となる幼児・児童の保護者から多くの意見が寄せられたことが分かりました。



(2) 海外修学旅行について

ア 「国際人の育成に海外修学旅行は効果的な取組だと思うか。」の設問

87.5%の回答者が「思う」「どちらかといえば思う」と回答をしています。

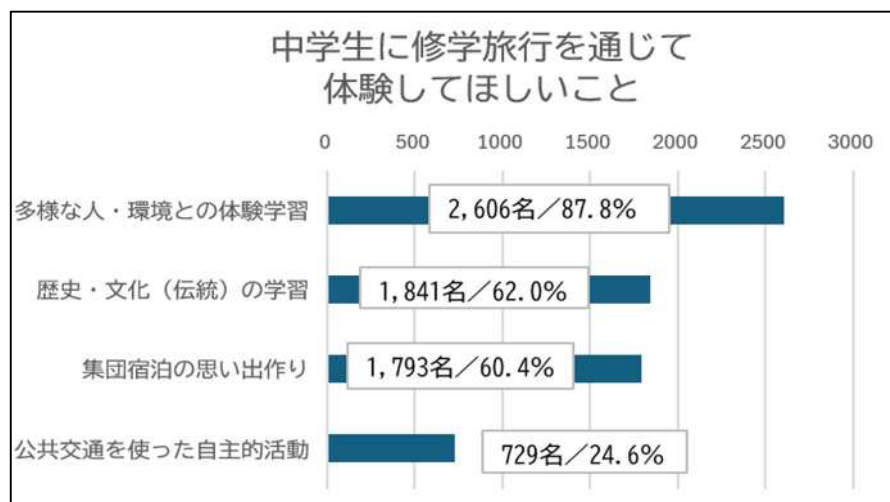


自由記述として、「思う」「どちらかといえば思う」の回答の理由としては、「国内では体験できない貴重な経験ができるから。」「日本しか知らない子どもが、実際に自分の身体で海外に行き世界を感じる事は、その後の人生に大きな意味を持たせると思うから。」「実際に海外へ行くことで視野が広がり、現地での経験から得られることがたくさんあるから。」といった海外でしかできない経験があるために、海外修学旅行は国際人の育成に効果的だという声がみられました。

また、「思わない」「どちらかといえば思わない」の回答の理由としては、「数日の経験ではあまり効果は期待できない」「まず日本の文化を知るべきだと思う」などの理由がありました。

イ 「中学生に修学旅行を通して経験してほしいことはなにか。」の設問

「多様な人・環境との体験学習」が2,606名(87.8%)、続いて「歴史・文化(伝統)の学習」が1,841名(62.0%)となっています。

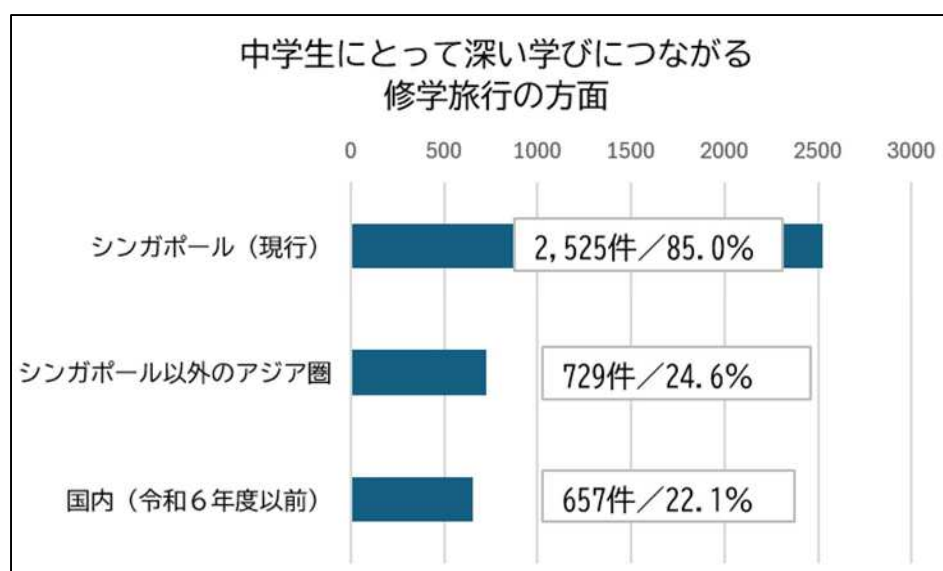


自由記述として、「多様な人・環境との体験学習」を選んだ回答者からは「多様な社会、文化と人々のあり方について『知る』というのは、具体的な経験があってこそだから。」「日本とは違った文化や環境を体験して欲しいから。」等の意見がありました。

また、「歴史・文化（伝統）の学習」を選んだ回答者からは「日本文化を世界的な視野で考えてほしい。」「海外の文化を学ぶことで日本の文化を見直し、世界における自分たちの立ち位置を把握するきっかけになると思います。」との意見がありました。

ウ 「中学生にとって深い学びにつながる修学旅行の方面はどこか。」の設問

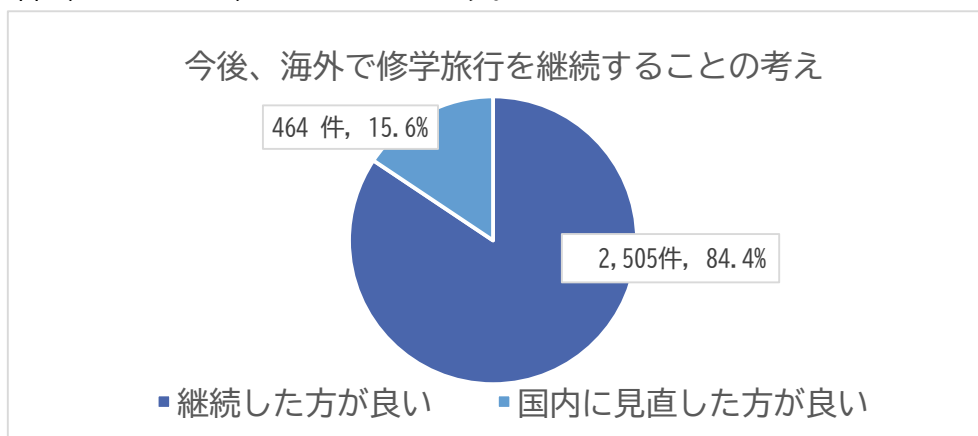
シンガポール（現行）を2,525名（85.0%）、シンガポール以外のアジア圏が729名（24.6%）、国内を657名（22.1%）が選択しています。なお、この設問は複数回答ができるようになっており、シンガポールのみを選択したのは2,252名（75.8%）、国内のみを選択したのは384名（12.9%）となっています。



自由記述として、「シンガポール（現行）」を選んだ回答者からは「治安が良く、インフラが整っていることから修学旅行先として利点が多い。」「治安面や移動時間、そして過去数回の修学旅行の実績から、シンガポールが一番安心して送り出せる。」といった意見がありました。また、「国内」を選んだ回答者からは「まずは日本の歴史や文化を学ぶべき」として国内修学旅行を支持する意見もありました。また、一部にはオーストラリア、ニュージーランド、イギリス、アメリカなど、シンガポール以外の英語圏や異文化をより強く感じられる地域を希望する意見もありました。

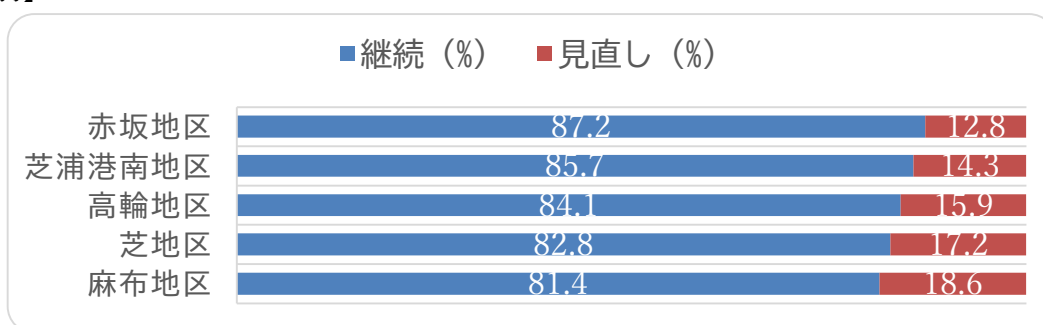
エ 「今後、海外で修学旅行を継続することの考え」の設問

「継続した方が良い」が2,505名（84.4%）、「国内に見直した方が良い」が464名（15.6%）となっています。



地区別と年代別、子どもの有無の割合については以下のとおりです。子どもがいると回答した中で、海外修学旅行を継続した方が良いと回答した割合は85.1%、国内に見直した方が良いと回答した割合は14.9%となっています。一方で、子どもがいないと回答した中で海外修学旅行を継続した方が良いと回答した割合は47.3%、国内に見直した方が良いと回答した割合は52.7%となっています。

【地区別】



【年代別】

年代	継続した方が良い	国内に戻した方が良い
10代以下	51名	4名
10代	39名	11名
20代	16名	2名
30代	438名	52名
40代	1,457名	245名
50代	470名	121名
60代	20名	20名
70代以上	14名	9名
合計	2,505名	464名

自由記述では、継続を支持する意見としては、「海外は家庭で気軽に連れて行くことが難しい。学校行事としての取り組みはとても良い経験となると思う。」といった「家庭では得られない貴重な体験機会」や「家庭環境による体験格差の解消」を理由にする意見や、「区立中学校を選ぶ動機の一つになっている。港区ならではの取り組みとして、他自治体では得られない教育機会を維持してほしい。」といった特色を支持する意見がありました。「英語を使う場面が生まれ、学習意欲が高まる」といった意見もあり、海外修学旅行が英語学習や国際意識の向上に対するモチベーションになっており、教室での学びを強化するという期待感が高いことが伺えます。

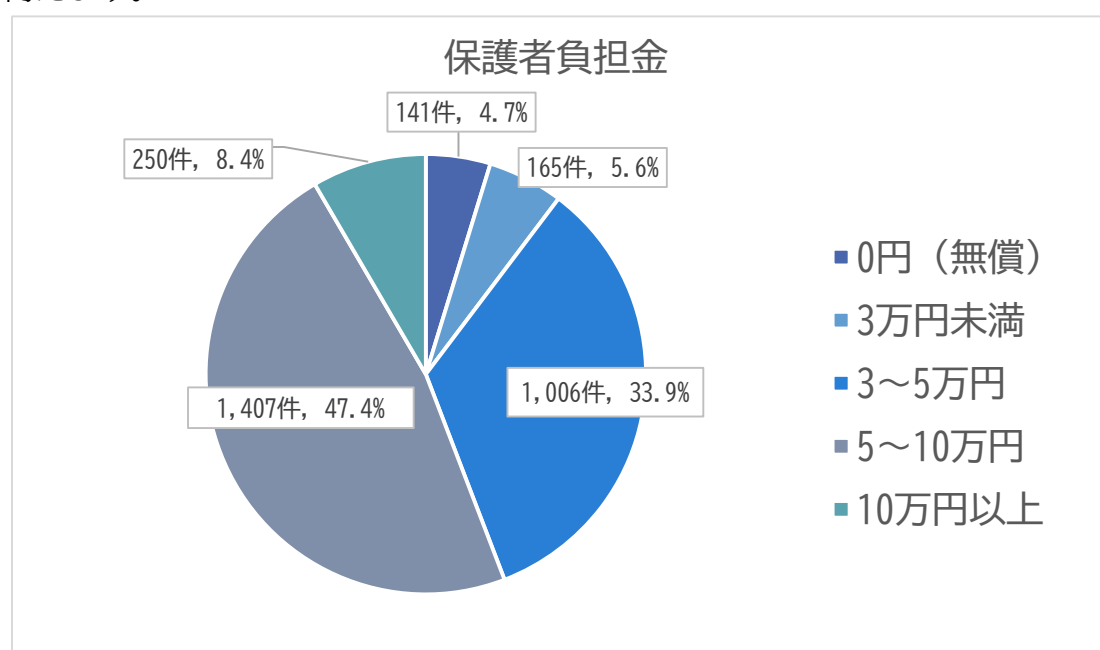
また、「日本で歴史を学ぶのも悪くはないと思いますが、未来が開ける可能性のあるワクワク感を感じられる経験をさせるべきだと思います。」といった「視野の拡大」や「異文化理解」を理由にしている意見がみられました。

一方、見直しを求める意見としては、「区立中学生のみへの手厚い公費支援は、私立・国立中に通う区民家庭との公平感を欠く。区民全体が納得できる税金の使い方が求められる」といった私立・国立への公正性を訴える声や、「一学年・数日間の旅行に多額の公費を費やす費用対効果に疑問」といった教育効果への疑問が主な理由として挙げられています。

(3) 保護者負担金について

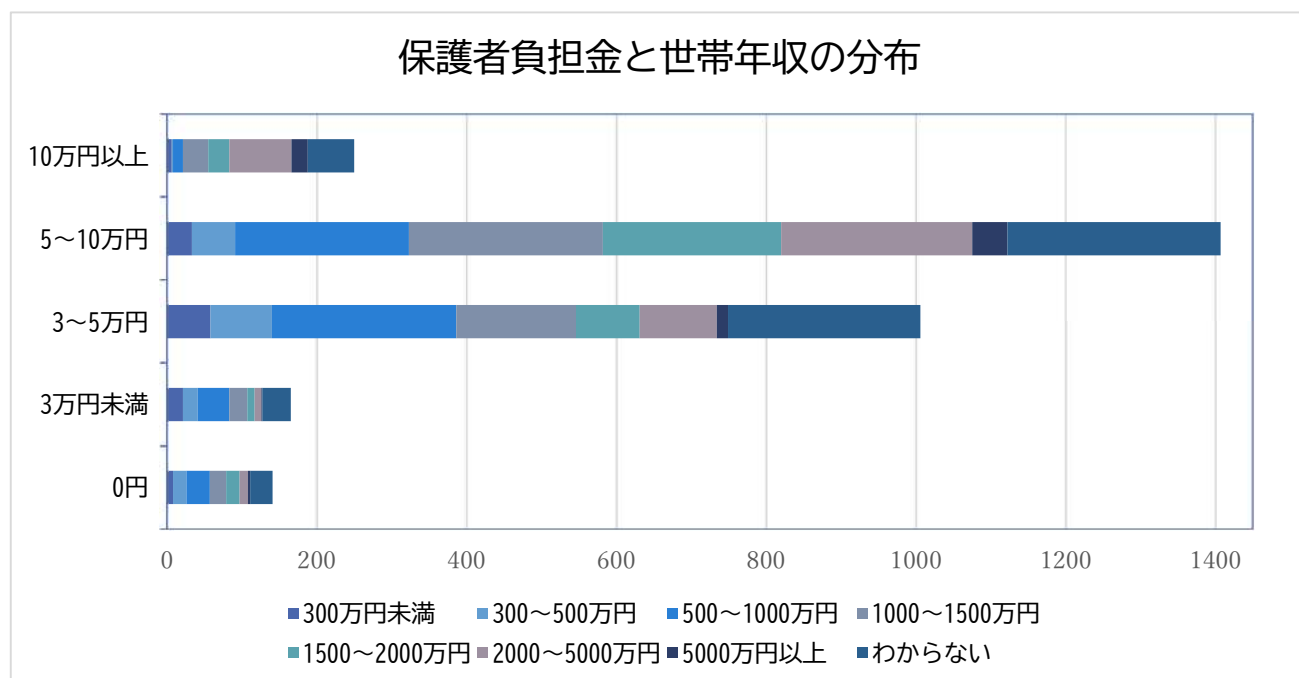
ア 負担金の金額

海外修学旅行を継続した場合の保護者負担金については、「5万円以上10万円未満」が1,407人(47.4%)で最も多く、次いで「3万円以上5万円未満」が1,006人(33.9%)です。回答者の89.7%が3万円以上の負担を許容しており、また55.8%が現行の負担額である5万円以上を許容していることから、一定の保護者負担を伴う海外修学旅行についても理解が得られていることが伺えます。



イ 保護者負担金と世帯年収の分布

世帯年収の分布としては、年収世帯1,000万円以上が54.3%を占めています。保護者負担金と世帯年収の分布は以下のとおりです。



港区中学校海外修学旅行の区立中学生1年生及び2年生生徒アンケート結果について

港区中学校海外修学旅行の区立中学校1年生及び2年生生徒のアンケートの結果について、以下のとおり報告します。

1 アンケートの概要

- (1) **実施期間** 令和8年7月6日（月）から同月31日（金）まで
- (2) **対象** 区立中学校1年生及び2年生生徒（1,673名）
- (3) **回答件数** 836件（回答率 約49.9%）
- (4) **調査の内容**

- 属性 所属中学校、氏名
- 次年度以降の海外修学旅行は楽しみかどうか、とその理由
- 国内・海外問わず修学旅行で経験してみたいことはなにか。

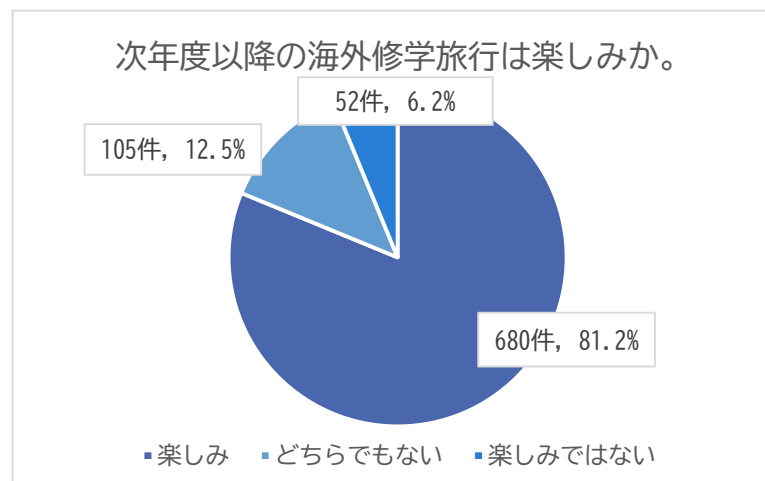
(5) 結果の概要

- 約8割の生徒が次年度の海外修学旅行が楽しみであると回答しています。「学校で習った英語を実際に使ってみたい」「海外に行ったことがないから楽しみ」といった海外体験を楽しみとする理由となっています。
- 「国内・海外問わず修学旅行で経験してみたいことはなにか」の設問については、「集団宿泊行事の思い出」と「多様な人とのコミュニケーション」が回答者の約78%を占めています。

2 アンケートの結果

(1) 次年度以降の海外修学旅行が楽しみかどうかの設問

約8割の生徒が「楽しみである」と回答しており、「どちらでもない」「楽しみではない」を大幅に上回っています。



(2) 主な理由について

「楽しみ」と回答した生徒の理由

- ・友達と海外に行ける機会は少ないから
- ・海外に行ったことがないから楽しみ
- ・学校で習った英語を実際に使ってみたい

「どちらでもない」と回答した生徒の理由

- ・英語が話せないから怖い
- ・言語が通じないことで起きるトラブルが心配
- ・どこに行くかわからないから

「楽しみではない」と回答した生徒の理由

- ・英語を話せる自信がない
- ・治安やルールが心配

(3) 「国内・海外問わず修学旅行で経験してみたいことはなにか」の設問

「集団宿泊行事の思い出」(443件)、「多様な人とのコミュニケーション」(212件)が回答者の約78%を占めています。

